The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	現代新聞における略語使用の変動傾向とその類型
Author(s)	クドヤーロワ，タチアーナ
Citation	待兼山論叢．日本学篇．2012，46，p．65-79
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27218
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

現代新聞における略語使用の変動傾向とその類型

タチアーナ・クドヤーロワ

キーワード：略語，原語，略語使用率，書きことば，新聞コーパス

0. はじめに

本稿では、現代の新聞コーパスを資料として、略語の使用を、そのもとになった原語の使用とともに経年的に調査し、略語と原語との間の量的な関係として8つの類型が見られることを報告する。

略語については、俗語的・話しことば的であるとする印象が先行しているためか、書きことばを対象とする実態調査はほとんど行われていない。しかし、現実には、略語は書きことばとしての新聞でも数多く使われている。略語の使用に保守的だと考えられる新聞で、原語ではなく略語が使われる理由を明らかにすることは、略語の研究にとって重要な課題になると思われるが、そのためには、略語と原語双方の使用を実際に調査し、新聞における両者の関係を見出すことが必要になる。

筆者は、先に、同様の調査を行い、略語と原語との間の量的な関係として4つの事例が見られることを報告した（クドヤーロワ2011）。しかし、その後、対象とする略語・原語を大幅に増やして再調査を行った結果、両者の量的な変動には8つの傾向が認められ、それらは、単なる事例ではなく「類型」としてまとめられることがわかった。以下では、その8つの類型を報告する。

1. 調査項目・方法・資料

調査項目としたのは、以下の30対である。辞典・用語集の類とインターネット上の資料を参考に、一般人に馴染みのあるものを選んだ。

1）アルバイト：バイト
2）インフレーション：インフレ
3）携帯電話：携帯
4）原子爆弾：原爆
5）原子力発電所：原発
6）高速道路：高速
7）コンタクトレンズ：コンタクト
8）コンビニエンスストア：コンビニ
9）サプリメント：サプリ
10）産業廃棄物：産廃
11）自動販売機：自販機
12）就職活動：就活
13）スーパーコンピューター：スパコン
14）卒業論文：卒論
15）大学院生：院生
16）ダイヤグラム：ダイヤ
17）ダイヤモンド：ダイヤ
18）着信メロディー：着メロ
19）通信販売：通販
20）定期券：定期
21）投資信託：投信
22）ナノテクノロジー：ナノテク
23）入学試験：入試
24）入国管理局：入管
25）パーソナルコンピューター：パソコン
26）パトロールカー：パトカー
27）バラエティー番組：バラエティー
28）有給休暇：有休
29）リストラクチャリング：リストラ
30）リハビリテーション：リハビリ

調査では、前回と同様、現代の新聞コーパスを通時的な言語資料とみなし、略語と原語との使用頻度を調査して略語使用率を導き、その経年的な変動傾向から、両者の関係とその関係の推移をとらえる。使用頻度は、一般名（普通名詞）の単純語として用いられた場合だけをカウントし、合成語の構成要素や固有名詞として用いられた場合は問題にしない。コーパスには、『朝日新聞』記事データベースの23年分（1984－2006）を利用

し、[1] 調査項目とする略語・原語の出現用例が多かった紙面を選んで、両者の使用頻度を調査する。

2. 略語使用の変動傾向

以下、略語使用の変動傾向としてとりだした8つの型を、各調査項目の略語使用率のグラフとともに示す。本来は、原語・略語の使用頻度も示すべきだが、紙幅の都合上、割愛する。

2. 1　略語が原語を圧倒するタイプ（略語圧倒型）

略語が原語を圧倒し、その使用がほぼ100%となるものである。「インフレ」「ダイヤ（グラム）」「パトカー」などは調査期間のかなり前から、「パソコン」「リストラ」「リハビリ」などは調査期間中に、略語の使用が圧倒的になる。

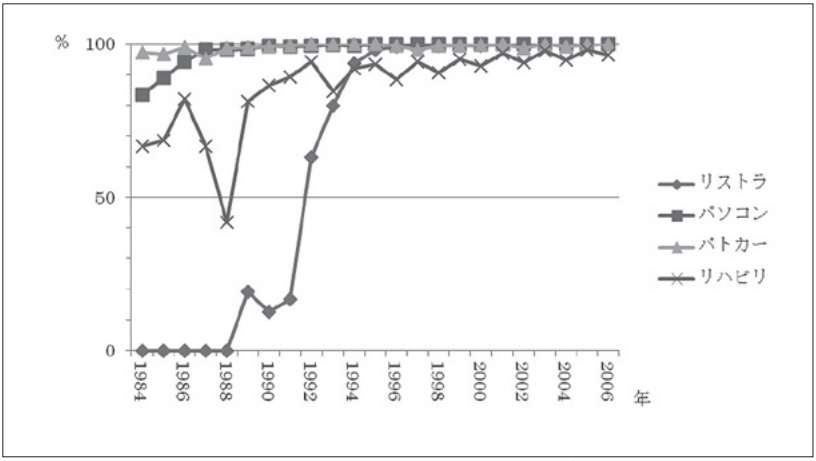

図1　略語圧倒型の略語使用率[2]

原語がまれに使用される場合は、略語を提示する前に一度だけ使われたり、原語と略語の意味がずれていたり（1）、原語がメタ的に使用されたり

(2)、なんらかの制限が見られるものが多い。このような制限は、衰退する寸前である原語使用の特徴であると推測できる。

(1) 野村証券は、「関連会社のリストラクチャリングの一環で、担保株を処分し、残っていた債権を譲渡して、処理を終えた」としている。(「社会面」、2000年06月30日)

(2) パソコンは「パーソナルコンピューター」の略語。個人のコンピューターという意味だ。(「社会面」、1999年04月28日)

2. 2　略語が原語より優勢であるタイプ（略語優勢型）

「原発」「原爆」「入試」など、原語の使用例がまだ多少見られるが、略語がどの紙面においても原語より（きわめて）優勢になるものである。

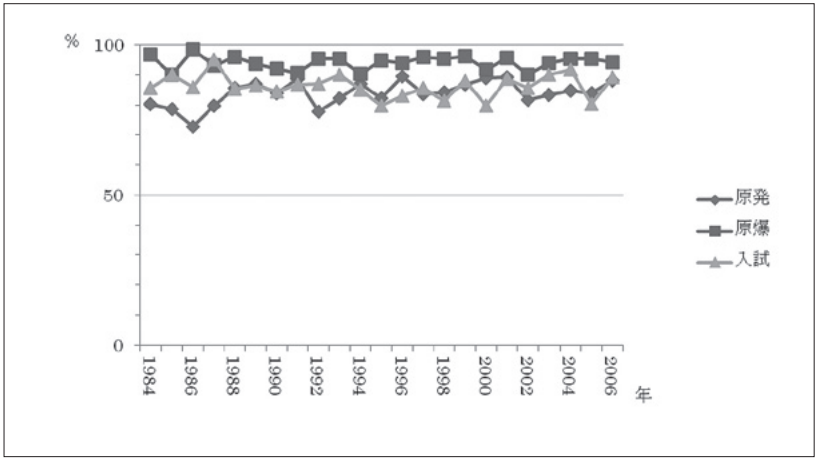

図2　略語優勢型の略語使用率

これらの略語はどの紙面でも原語より優勢で、とくに「オピニオン面」では、略語のみが使用される年も見られることが特徴的である。

2. 3　略語が原語を上回るタイプ（略語逆転型）

「コンビニ」「産廃」「着メロ」など、略語の使用が緩やかに原語を上回るものである。

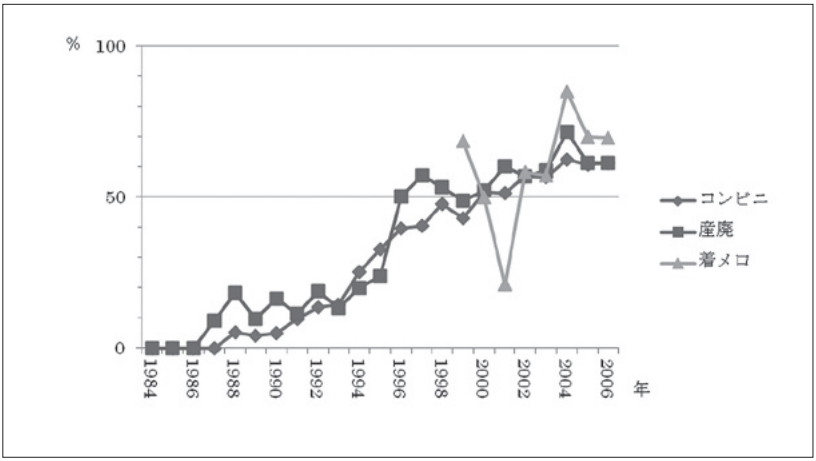

図3　略語逆転型の略語使用率

紙面別に見ると、殆どの紙面において、最初は原語が優先的に使用されるが、調査期間の後半頃からは略語が原語を上回るようになる。ただし、そうした傾向には、紙面別に遅速がある。たとえば、「コンビニ」の場合、略語の使用は、「経済面」が先行するが、略語「コンビニ」が原語「コンビニエンスストア」を上回るようになるのは、「オピニオン面」が一番早く、「経済面」、「生活面」、「総合面」では1997－1999年あたりからである。一方、「社会面」における略語の使用頻度は、増加しつつも、原語を上回っていない。「社会面」では、下例（3）のように、コンビニエンスストアが事件などの現場として報じられることが多いが、その際には、略語ではなく原語が使われることが圧倒的に多い。

（3）5日午前4時半ごろ、大阪府東大阪市吉原2丁目のコンビニエンス

ストア「ローソン東大阪吉原店」で、新聞などを買うふりをしてレジに近づいた男が男性店員（20）に包丁を突きつけ、「金を出せ」と脅した。店員がレジから現金約20万円を取り出し渡すと、男は現金を奪って徒歩で逃げた。（「社会面」、2006年01月05日）

2. 4　略語が原語と拮抗するタイプ（拮抗型）

略語と原語の使用率が接近し、両者が拮抗するようになるものである。

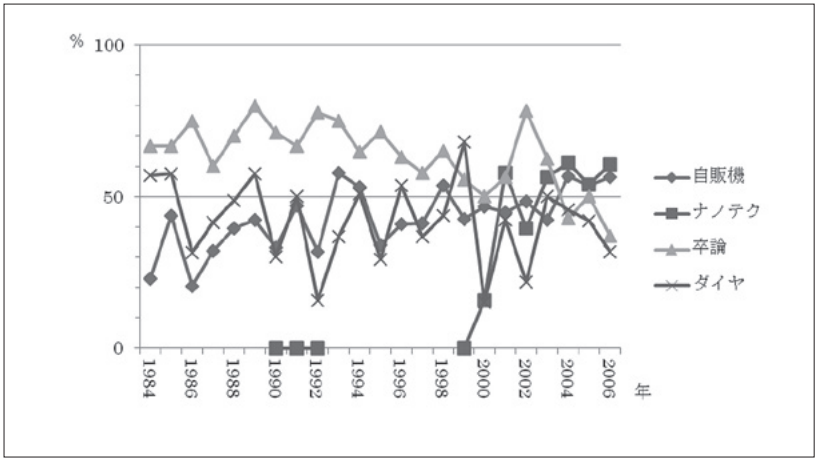

図4　拮抗型の略語使用率

「自販機」ははじめ原語が優勢であり、逆に、「卒論」は略語が優勢であるが、どちらも、原語・略語が互角に使われる傾向に収束するように見える。また、こうした互角の傾向は、紙面別に調べても、どの紙面でも見られるものである。このタイプは、後述する不規則型にも近いが、略語使用率にそれほど大きな増減はなく、また、（「ナノテク」を除いて）指示対象に明確な時事性もみとめられない点が異なる。

2. 5　略語が原語を上回らないタイプ（略語微増型）

「携帯」「通販」「コンタクト（レンズ）」「有休」「サプリ」など、略語が少し増えるものの、原語を上回ることがないものである。

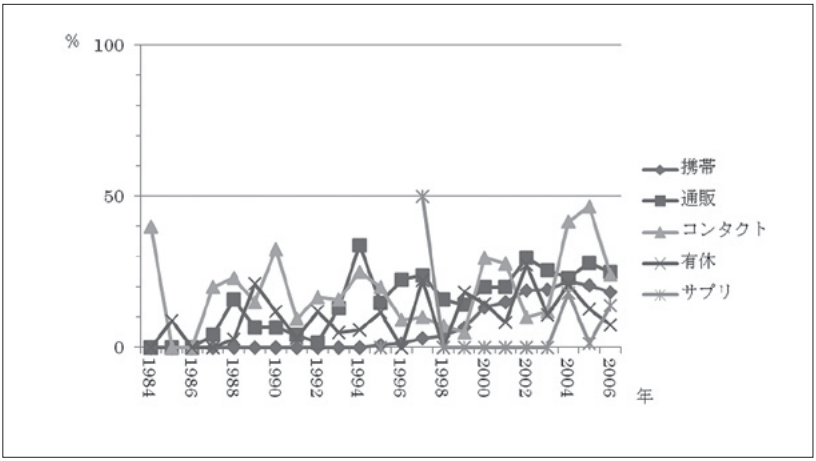

図5　略語微増型の略語使用率

このタイプの略語は、「オピニオン面」や「生活面」など、口語的な表現や用語が許容される紙面で増えやすい。

(4) 昨年は電話機が壊れ、ファクス付きの電話機に取り換えた。このときも説明書を読みながら悪戦苦闘した。だが、アドレスを入力し、留守電を携帯に転送できるまで自分でできた。(「生活面」、2006年05月13日)

「有休」以外の項目は、比較的新しい概念・事物を指す用語であることも特徴的である。指示対象物の流行性が、「オピニオン面」のような紙面での使用を促進させたことも考えられる。

一方、「経済面」「社会面」「総合面」などでは、原語が使われ、略語が使われることは少ない。

(5) 東京都内のカード会社によると、不審人物はカードの数字を携帯電話に打ち込むなどして記憶。盗み読んだ数字をカード原板に刻印して、磁気部分にもデータを複製したとみられている。(「社会面」、2000年01月26日)

2. 6　略語が増えないタイプ（原語優勢型）

「バラエティー（番組)」「院生」「定期（券)」など、調査期間を通して、略語の使用率が低く、増えないものである。「バラエティー」の使用率が初期に乱高下するのは、使用頻度が小さいからである。

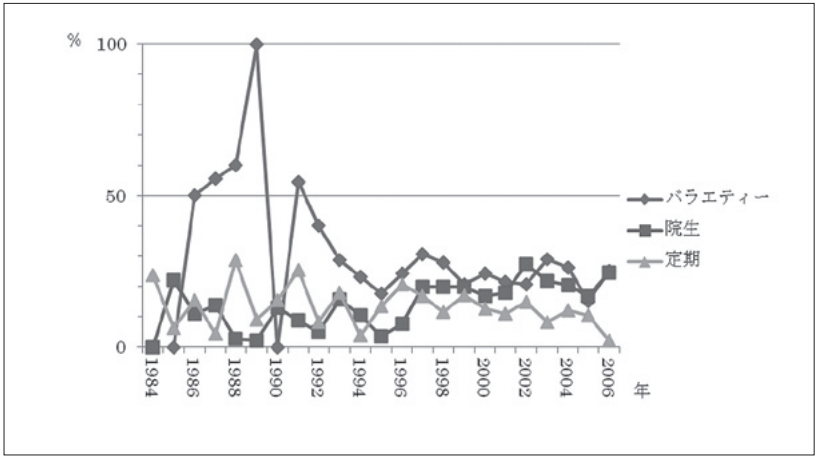

図6　原語優勢型の略語使用率

これらの略語は、原語を上回るか、原語と同程度のものになってもよさそうであるが、どの紙面でも低い割合で使用される。「定期預金」や「バラエティーに富む」のように、同音異義語との共存関係が要因の一つと考えられる。略語使用率が低い点が、やや口語的である紙面において使用頻度が少し増える略語微増型（比較的新しい事物・概念を指す「携帯」、「コ

ンタクト」、「通販」、「サプリ」など）と違うところである。

2. 7　略語が殆ど使用されないタイプ（原語圧倒型）

「高速（道路）」「バイト」「就活」など、原語が圧倒的に多く、略語が増えることなく、殆ど使用されないものである。

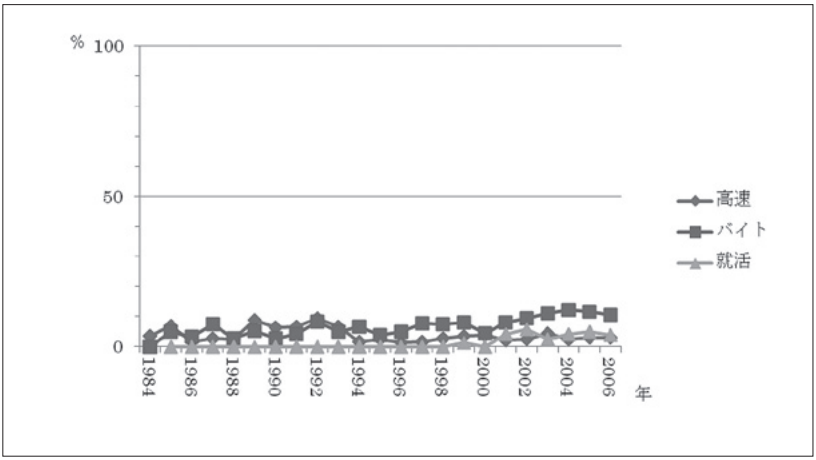

図7　原語圧倒型の略語使用率

このタイプは、略語使用率が非常に低いのだが、それでも、「オピニオン面」「生活面」のような紙面ではわずかだが使用されている。これは、「高速」「バイト」「就活」などが俗語性をもつからだと考えられる。「携帯」や「通販」など略語微増型も、「オピニオン面」などで使用されやすいことから、俗語性がまだ残ると考えられるが、全体的な使用率が増えている点で、本節の原語圧倒型と異なる。また、原語優勢型の「定期」「院生」などは、俗語性がそれ程感じられなくても、使用率がどの紙面でも増加しない。

2. 8　略語が不規則に増減するタイプ（不規則型）

「スパコン」「投信」「入管」など、略語が原語に取って代わることなく、その使用が不規則に増減するものである。

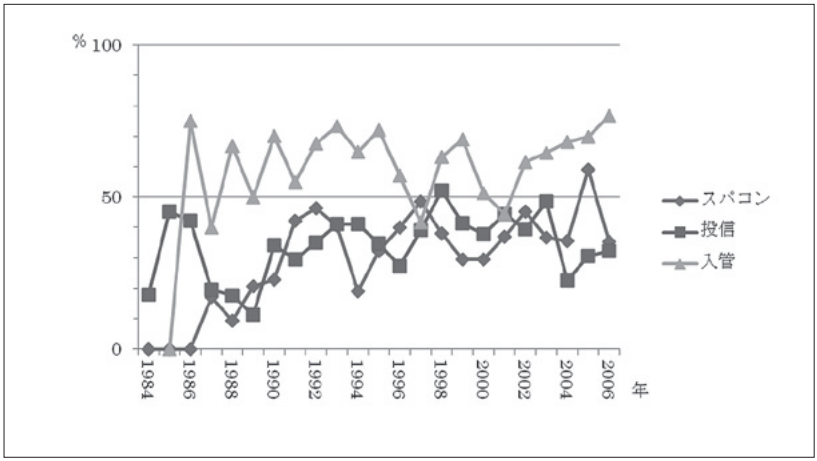

図8　不規則型の略語使用率

「スパコン」、「投信」、「入管」の使用頻度は、指示対象の話題性（時事性）と関連して増減する。指示対象が話題になる時は、それを指す略語使用に上昇が見られる。一方、指示対象が話題になるピークが過ぎると、略語の使用頻度が低くなり、原語の使用頻度が上がるのである。

「スパコン」については、1989－1990年に日本と米国との間にスーパーコンピューターのダンピング問題が起こり、新聞の中で広く議論されていた。ちょうどその時期から略語「スパコン」の比率が増加し始める。スパコンが話題となる期間はその後数年に渡っており、1992年や1997年をピークとする略語使用の山は、こうした事情を反映したものと考えられる。2005年にも略語使用の山が現れるが、この時期には、日本の航空宇宙技術研究所がNLS（国家戦略としてスーパーコンピューター開発をリードする最高水準の汎用システム）として地球シミュレーターを開発し、そ

の適応性やこれからの展望などが新聞でもよく話題にされており、そのことが反映しているものと考えられる。

「投信」についても、以下のように考えられる。日本の戦後の投資信託は、1951年に再開され、日本経済の本格的な経済成長を背景に、順調な伸びを示したが、1980年代に入って特に飛躍的に普及した。それは1985年を中心とする略語使用の山に当たるように思われる。1990年代に入ると、制度面でも、いろいろな改革が行なわれたが、1998年には特に大改革とされる証券投資信託法、証券取引法等が制定され、実施される。その時期は1998年を中心とする山に相当する。2001年－2005年は、ETFや確定拠出年金がスタートした時期であり、2003年を中心とする山に当たる。[3)]

「入管」については、1990年に、入管体制における転回点であったと思われる「出入国管理及び難民認定法」の改正が実施され、「オーバーステイの増加など、就学生問題が起こり」、移民、入管法違反者が増えた。これは深刻な問題になったためか、入国管理局とそれにかかわる事柄が新聞（特に「社会面」）でよく話題になり、略語「入管」の使用頻度がその時期に上がる。その後、出国命令制度の導入（2004年）と、難民審査参与員制度の導入（2005年）もが行われ、ちょうどその時期に略語「入管」の使用率が再び増加傾向になる。これは使用率の第2のピークに当たる。

3. まとめと今後の課題

本稿では、現代の新聞コーパス（『朝日新聞』記事データベースの23年分）を資料とし、30組の原語と略語を選んで、その使用傾向を調査し、略語使用率の変動傾向について再検討した。結果として、以下の8つの類型が見出された。

1. 略語が原語を圧倒するタイプ（略語圧倒型）

2. 略語が原語より優勢であるタイプ（略語優勢型）
3. 略語が原語を上回るタイプ（略語逆転型）
4. 略語が原語と拮抗するタイプ（拮抗型）

5. 略語が原語を上回らないタイプ（略語微増型）
6. 略語が増えないタイプ（原語優勢型）
7. 略語が殆ど使用されないタイプ（原語圧倒型）
8. 略語が不規則に増減するタイプ（不規則型）

「リストラ」などの略語圧倒型と、「原発」などの略語優勢型は、話しことばにおける略語使用と同様の傾向を示すものだろう。「コンビニ」などの略語逆転型は、たとえば、「社会面」での略語使用が活発でないなど、新聞独自の理由によって生じたものであろう。

「携帯」などの略語微増型は、その俗語性をはじめとするいくつかの理由によって、書き言葉としての新聞における略語使用が抑えられているものと考えられる。「高速」などの原語圧倒型も、どの紙面でも略語使用率が非常に低い中、「オピニオン面」と「生活面」のような紙面ではやや使用されやすい。

「バラエティー」や「院生」などの原語優勢型は、原語を上回る単語、または原語と同程度のものになってもよさそうな単語であるが、同音異義語が存在するためか、どの紙面でも低い割合で使用される。「オピニオン面」でもあまり使用されない。

「自販機」などの拮抗型は、最初は、原語が多かったが、その後に略語が増え、原語と同程度の割合で使用され続けている。どの紙面でも、激しい頻度差が見られず、原語・略語が、使用頻度として、増減（交替）するように使用される。

さらに、「スパコン」や「投信」などの不規則型は、それらが新聞にと

りあげられる度合い、即ち、それらの時事性や話題性といったものが略語使用に影響しているものと考えられる。「スパコン」や「投信」の使用がこうした時事性・話題性に左右されるのには、これらが日常の話しことばではあまり使われない専門用語としての性格が強いということも関係しているのだろう。これらは、指示対象自体が日常的ではないから、略語であれ原語であれ、一般語としては定着しにくいものと考えられる。

このように、新聞における略語使用には、新聞というレジスターの性格がかかわっている。それは、「リストラ」のように話し言葉と同様の傾向を示す場合もあれば、「携帯」や「高速」のように書き言葉としての特徴を際立たせる場合もある。また、「コンビニ」のように紙面別の特徴が影響する場合もあれば、「スパコン」や「投信」のように新聞の時事的な側面がかかわる場合もあるのである。

本調査で提示した8つの類型には連続性がないのかという疑問の余地が残っている。略語圧倒型、略語優勢型、略語逆転型の3タイプは、略語が出発点より増えたことは共通しているが、これらの違いは、実は、略語による使用変化の遅速の差であるかもしれない。即ち、変化の速度の問題であるのである。略語微増型、原語優勢型、原語圧倒型の3タイプも、同じく、略語の使用率が低いという共通する特徴を持っている。

但し、類似しているように見えるタイプでも、部分的に重なるところ（俗語性、低い略語使用率など）もあれば、それぞれ違う性質（「オピニオン面」などでの使用可能性、紙面別使用率の差の有無など）も持っているので、これらの類似しているタイプが将来的に一致するかどうかは、現時点では断言できない。そこで、本調査の段階では変化の遅速を特に考慮せずに、略語使用の類型を上述のように分けるにとどめたい。

注

1）朝日新聞オンライン記事データベース『聞蔵Ⅱビジュアル』（『AERA』『週刊朝日』は除く）を大阪大学附属図書館を通して用いた。

2）「インフレ」と「ダイヤ」は、略語の使用開始の時期が調査期間の始まる1984年よりずっと前であり、1984年時点では既にほぼ100%であったので、図1には示さなかった。

3）日本における投資信託の歴史と流れについては、野村アセットマネジメント（www.nomura-am.co.jp）と投信資料館（www.toushin.com）を参照した。

参考文献

石井正彦「コーパスによる語彙の研究」『日本語学』22-4、2003、pp.188-199.
石野博史「略語の造語法」『日本語学』12-9、1993、pp. 57-64.
菅野謙「マスコミ言語の省略表現」『日本語学』12-9、1993、pp.34-40.
クドヤーロワ・タチアーナ「現代新聞における略語使用の変動傾向」『計量国語学』28-3、2011、pp. 79-93.
窪薗晴夫『新語はこうして作られる』（岩波書店）2002、177p.
玉村文郎「略語・略記法」『日本語百科大事典』（大修館書店）1988、pp. 539-541.
西尾寅弥「略語の構造」『言語生活』第339号、1980、pp. 40-47.
バイバー他『コーパス言語学 ── 言語構造と用法の研究』（南雲堂）2003、275p.
森岡健二「略語の条件」『日本語学』7-9、1988、pp. 4-12.
米川明彦『若者ことば辞典』（東京堂出版）1997、260p.
田辺洋二「外来語の略語 ── カタカナ語とローマ字語」『日本語学』7-9、1988、pp. 13-21.

（文学研究科外国人招へい研究員）

SUMMARY

Changes in Usage Tendency of Clippings as Observed in Modern Japanese Newspaper

Tatiana KUDOYAROVA

This paper presents new and complemented results, obtained from research on how clippings are used in newspaper texts ("Asahi Shimbun", 1984 – 2006). A diachronic analysis of the usage tendencies of 30 word pairs proved that relations between base lexemes and their clippings are diachronically unstable and gradually evolve into various patterns. The following 8 usage patterns were established:

1) clippings have completely replaced base lexemes ("*risutora*" etc.);
2) clippings prevail over base lexemes ("*gempatsu*" etc.);
3) clippings are in the stage of gradually replacing base lexemes ("*kombini*" etc.);
4) clippings and base lexemes compete, neither of them becomes prevailing ("*jihanki*" etc.);
5) clippings are used more frequently, but they are still in minority ("*keitai*" etc.);
6) usage ratio of clippings does not increase ("*baraeti*" etc.);
7) clippings are rarely used with base lexemes being in the majority ("*ko:soku*" etc.);
8) usage ratio of clippings fluctuates depending on topicality ("*supakon*" etc.).

It still remains unclear if these are completely isolated patterns or if they reflect different stages of naturalization of a clipping as an independent lexeme. This problem needs further investigation.